

日本食糧新聞

日本食糧新聞社

東京都中央区八丁堀2-14-4
ヤフービル(〒104-0032)

news.missyouku.co.jp

編集・広告☎03(3537)1303

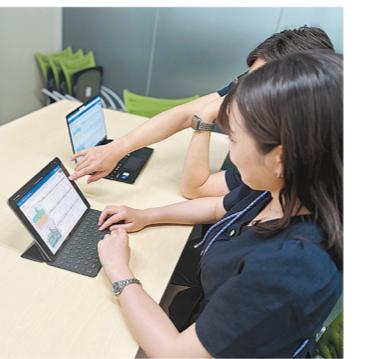
購読☎03(3537)1311

【支社局】北海道☎011(866)0721/
東北☎022(225)2721/新潟☎025
(240)8810/長野☎026(228)5520/
中部・静岡☎052(571)7318/関西
☎06(7664)3801/中国☎082(223)
2535/九州☎092(291)1790購読料 半年33,352円
(本体30,882円+税8%・前金)

©日本食糧新聞社2023年

商品開発の負荷軽減

伊藤忠商事「FOODATA」



多岐化するニーズやサイクル短縮などを背景に、食品業界の商品開発の負荷は増大している。細かく的確にニーズをとらえ、タイムリーなタイミングで商品化することは戦略上重要であるが、膨大な情報分析を効率的・スピーディに行う必要がある。伊藤忠商事では商品開発に必要となる多岐にわたるデータ収集・分析を「一元化」する独自ツール「FOODATA(フードデータ)」の開発・商品化に成功。カンパニー制の垣根を越えて実現した「商品企画・開発特化型」の独自ツールで、企画・開発視点に立った「新フードテック」としても反響を呼びそうだ。

(村岡直樹)

情報分析一元化を

「FOODATA」最大の特徴は、全国スリバーマーケットのID-POSやCVS購買データなどに加え、最終商品のおいしさ形成に必要な味覚分析や独自調査による膨大なPOSや購買データはもちろん、AIやSNSなどの定量化など膨大な情報を一元管理。「新フードテック」として商品開発の課題解決を図る

消費者分析、さらには今後重要性が高まると思われるSNS分析など

の膨大な情報収集や分析を、「二元的に可能とする」点。国内では多数の分析ツールが展開されているが、同ツールが一元化する対象範囲の広さや精度は、23年6月現在、国内最高峰レベル(本紙調べ)にある。

同ツールではプロセスやデータごとに必要なダッシュボードを検

査分析では、「おいしさ」の可視化技術で知られる「味香り戦略研究所」の協力の下、主

要NB・PB食品個々

ID-POS分析では、全国スーパーの約600万~800万人のデータによる全カタログの一の分析が可能。分析軸も売上金額や点数はもちろん、購入者属性やリピート率など多彩だ。

目玉の一つである味覚分析では、「おいしさ」の可視化技術で知られる「味香り戦略研究所」の協力の下、主

要NB・PB食品個々

の「味データ」を収め。前述のID-POSデータと掛け合わせれば、カタゴリーごとに売れる傾向の味覚を定量化でき、経験

勘ではなくデータをもとにしたターゲットニーズを満たす「おいしさ作り」が早く的確に可能となる。

また、商品開発に必要なトレンド分析にも優れる。主要SNSや口コミサイトなどの投稿を網羅的に収集し、内容をAIで解析する

SNS分析の機能も持つ。ワードを絞り込んで上でのトレンド分析に最適で、マーケティング戦略にも活用でき

る。同ツールは実は、中堅社員対象の新規事業のアイデア募集が起

る。「現場に根差しのDX」として、食品開発の諸課題を強みを生かして解決したい

(同社・石口創氏)思いで開発を進め、「食品企画や開発の精度・スピードを高め、結果として国内食品産



カンパニー制の垣根を越え、国内最高峰の分析範囲と精度を実現。巨

大商社の強みを生かした

が、例えばID-POS分析では、全国スーパーの約600万~800万人のデータによる全カタログの一の分析が可能。分析軸も売上金額や点数はもちろん、購入者属性やリピート率など多彩だ。

目玉の一つである味覚分析では、「おいしさ」の可視化技術で知られる「味香り戦略研究所」の協力の下、主

要NB・PB食品個々

の「味データ」を収め。前述のID-POSデータと掛け合わせれば、カタゴリーごとに売れる傾向の味覚を定量化でき、経験

勘ではなくデータをもとにしたターゲットニーズを満たす「おいしさ作り」が早く的確に可能となる。

また、商品開発に必要なトレンド分析にも優れる。主要SNSや口コミサイトなどの投稿を網羅的に収集し、内容をAIで解析する

SNS分析の機能も持つ。ワードを絞り込んで上でのトレンド分析に最適で、マーケティング戦略にも活用でき

る。同ツールは実は、中堅社員対象の新規事業のアイデア募集が起

る。「現場に根差しのDX」として、食品開発の諸課題を強みを生かして解決したい

(同社・石口創氏)思いで開発を進め、「食品企画や開発の精度・スピードを高め、結果として国内食品産

業全体の発展につながる。「味データ」を収める。前述のID-POSデータと掛け合わせれば、カタゴリーごとに売れる傾向の味覚を定量化でき、経験勘ではなくデータをもとにしたターゲットニーズを満たす「おいしさ作り」が早く的確に可能となる。

また、商品開発に必要なトレンド分析にも優れる。主要SNSや口コミサイトなどの投稿を網羅的に収集し、内容をAIで解析する

SNS分析の機能も持つ。ワードを絞り込んで上でのトレンド分析に最適で、マーケティング戦略にも活用でき

る。同ツールは実は、中堅社員対象の新規事業のアイデア募集が起

る。「現場に根差しのDX」として、食品開発の諸課題を強みを生かして解決したい

(同社・石口